



「地域の防災コミュニティづくり」



とくいのりひろ
徳井 教寛 氏

FM ヤマト (合同会社 YAMATO) 代表

寧薬化学工業株式会社 代表取締役会長



創業 85 年の医薬品製造会社の会長として、今日まで各種団体活動の長を経てきましたが、イベントや事業を企画運営する度に、その参加人数や動員方法、準備開催の進め方、広報・宣伝の仕方でも悩んで、コミュニティ FM 放送で地域に密着した情報発信ができればと考えるに至りました。更にいずれの町にも忍び寄る「昔は賑やかだった」と言うばかりで、町が疲弊していく状況を目の当たりにして、コミュニティ FM 放送局という手段で、町の情報発信をして、何とか町が元気になればとスタッフとともに町おこしに頑張っています。

何不自由なく生活できる現在の環境の中で、「どのような方法が的確に、広く多くの人々に伝えることができるのか？」ということは、長年の勉強課題でした。

今迄いろんな団体の事業企画や運営に携わったり、或いは自社の新製品テスト販売を考えたり、また新規にお店を出店することもありましたが、これらの情報を広報するための適切な手段を見つけ難かったのです。テレビや広域ラジオ或いは新聞広告では広告費が高すぎるし、肝心の近隣の顧客を対象に宣伝することはできません。新聞折込は地域を限定できますが、チラシ印刷に早くても 10 日を要し、印刷代・新聞折込料の事を考えると即応性と費用対効果からは有意義な方法とは言いにくいものです。どうしたら地域に限定した情報発信を、安価に効果的にできるかということが課題でした。大和高田の片塩商店街では街頭放送で FM ハイホーという王寺の FM ラジオが流れていて、**大和高田のコミュニティ放送局があっても良いのでは……**と数年前思ったことが開局のきっかけです。

ラジオ電波は高い場所から発報する方が遠くまでよく聞こえます。中和地区で一番高い場所でのアンテナ設置として、NTT 大和高田大中送信所のアンテナを借りることができ、準備期間を含め足掛け 4 年を経て、令和 3 年 2 月に開局に至りました。

コミュニティ FM 放送では地域防災での広報が求められています。丁度開局前の一昨年秋（令和 2 年秋）に、奈良県主催で防災士講習会が開催されることを知り、この講習を受講したことで防災に関する必要性をより深く認識し、また広くコミュニティ FM 放送で広報する重要性を感じました。

更に開局後は大和高田市並びに大和高田市に隣接する御所市・葛城市・香芝市・広陵町・橿原市とは防災協定を締結し、災害時や災害が予想される時の非常時放送体制をとり、優先的に非常時放送ができる体制をとっています。例えば、緊急事態に於いて漠然とした避難情報ではなく、市役所（首長）と FM ヤマトと直接電話をつなぎ生の声で「**〇〇地区危険です。避難してください！**」と呼び掛けることが可能で、またその電話の掛け方訓練もしています。緊急情報は聞き慣れているメディアの方が信憑性があります。平時は毎日午前 9 時から「我が町情報」として日替わりで防災協定締結市町の行事やお知らせを放送しています。

FM ヤマトの放送レベルを少しでも上げて、多くの市民に聞いて頂けるよう努力しています。

